



中村かほる（楽琵琶・舞）

国立音楽大学在学中、世界最古の琵琶譜、天平琵琶譜「番假崇ばんかそう」（芝祐靖氏復曲）の演奏に会い雅楽を学ぶ。龍笛を芝祐靖氏、楽琵琶・右舞を山田清彦氏に師事。2000年度文化庁新進芸術家国内研修員。伶楽舎所属。伶楽舎のメンバーとして、また、その他のアンサンブル、ソロで、1990年より国立劇場を始めとする、国内外の様々な音楽公演等において、琵琶・舞に携わっている。雅楽の合奏における楽器本来の演奏はもとより、楽琵琶のソロ楽器としての新たな可能性や魅力を追求するため、早くから独自の活動を開始。2002年よりコンサートシリーズ「琵琶・舞」開催。2015年1st.CDアルバム「ゆすら」発表。2016年「楽琵琶ソロコンサート～Playing the Gakubiwa～」を開催。2018年には、作曲家・石田多朗氏が展覧会「ブラジル先住民の椅子」（東京都庭園美術館）の会場音楽を中村かほるの楽琵琶のために作曲。その録音は展覧会の全期間、会場で流され、来場者に新鮮な驚きを与えた。舞の分野では、1990年以降、主に伶楽舎公演において、国内、米国、英国、ヨーロッパ、アフリカ等の様々な音楽祭で「還城楽げんじょうらく」「納曾利なそり」「抜頭ばとう」「貴徳きとく」といった古典舞楽を舞う。1998年黛敏郎作曲バレエ音楽「BUGAKU」で新日本フィルハーモニー交響楽団と共演。2012年コラボレーション舞楽「納曾利なそり」で韓国国立釜山国楽院と共演。2015年韓国国立国楽院（ソウル・釜山）にて「落蹲らくそん」を舞う。また、あらたな舞の作舞にも取り組んでおり、芝祐靖作品「露台乱舞ろだいらんぶ」（1995年）、「瑞霞苑ずいかえん」（2005年）では作舞と舞を担当し、好評を博した。楽琵琶での雅楽古典及び現代作品の演奏以外にも、正倉院復元楽器（五絃琵琶・阮咸げんかん）の演奏も行う。また、音楽・文学研究者らと共に、廃絶された楽琵琶秘曲・独奏曲の復元プロジェクトにも演奏者として携わっている。2015年より笙の石川高と「笙と琵琶だけの雅楽プロジェクト kishun」を開始。笙と琵琶という稀有

な組み合わせで、雅楽をたのしむ小音楽会やお稽古会などを開催している。ソロ CD に「ゆすら」(Greenfin Records)、参加 CD に「楽器は東へ西へ琵琶とマンドリン」(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、「あそび」(石田多朗)がある。

CONTACT

BLUESHEET

Mail: info@b-sheet.jp

Tel: 03-6275-1616